

一 藤のついでに中へ来て口傳も同様とせうとあり  
時ハ具足乃右れ方乃引あぐきよと云へり  
口傳あり

一 川色おろしれ燈卯花威の程口傳より

文明十八年正月十日

右隨玄日記心修勢貞春筆授命

隨兵之次第事

一 先白之帷子返さる次まぐ<sup>中</sup>ま<sup>河</sup>一袋とす  
お也

一 次は大口とす同水干と急次へ一  
次手返とすさり菟子<sup>手蓋</sup>へてつゝさらよ

針もとすと有あてのあ方次へ一  
半れやうにのちさうとありあての  
次は水干の袖とたはしむ也あての  
とらとゆふなり次にゆけとさへ  
一 鐘とさる次はけさる也  
お力とさる



一 太刀とくくち力乃事ハこうのち力又白を力  
成へ

一 征矢と負其後征矢のうらむいとむくといふ

一 物とのへも苗家よりうらむいとむくといふ

一 物とくくち力乃 花 饒

一 依也武田も同前次に鞭とさすじらとん

一 藤より活也鞭を熊柳よりくくち力

一 物とくくち力乃 白 柳

一 小るくも腕後ハ赤草よりくくち力

一 物とくくち力乃 二尺七寸五分也

針成へ

藤ハ西にたつふ但一すふ  
物とくくち力乃

一 弓ハお重夜うらむ二尺とつうくくち力

一 白藤よりくくち力 是ハ苗家

一 たりと同張替持ハ中る成へ 同くも

一 物也法替持強とさす て

一 物とくくち力乃 て

一 緒紙よりくくち力 同

一 物とくくち力乃 白毛

一 物とくくち力乃 馬のさ地

一 皮持ハ右成魚

一 張替持と云方持つてふるも方持た法替持  
 右なるも一是馬の尻より後へ一は  
 皮持れ次は物も色もとり成し  
 一 られ持やうのひまりあつたは河弦と  
 下下なしてたに持也柳馬に糸くハ大差  
 乃何れ持やうに替りし馬もありて御  
 門あよ何る乃次は門むむく志やうも  
 一 之ハ一次に皮持とい外流は役として白毛  
 方と云やう本の皮く一柳勝とくはる

一 皮の白毛と是れさしとて踏極よ可し有  
 一 扱け付られ持やう先ら杖つて付ハ弦と先  
 一 するて雲一柳志やうも腰ををく履  
 一 弓張るも一てら若と先つて一弦を  
 一 糸へするて持つて也例武の持やうに同お柳  
 一 志やうも一は付ハ先ら杖とつて可し立  
 一 上様御出れ付畏るもくらの法と因あて  
 一 うら若とらと横ら梅もるやうに持め畏  
 一 へ一おして大将もくも入物も射とる御  
 一 大方られ持やう同若又人よとあてら杖

突的くと瀧のふりてらばとく入法と申成  
ておと云一一同語をもつと語可成軍陣  
のら征矢小勢とつて次

一 番家れ征矢ハ編如りまこと標とす事ハ志ハ  
とりの矢ハ刺也古五れ月二十矢を十六矢ハ  
意とつて一是も軍陣の何れ征矢ハ智と  
しひやうの矢とぬ秘統也にらて意ハ智  
の尾とつて一山をれ尾ハ中のお羽とく也  
一 征矢れ何の事切符とつて一是も同く  
大おの負征矢也といふやハ名可叶成也

一 旗れ事とつて一旗白者とつて一は其の  
一 附旗旗もつてハ名用事也

一 大将の負征矢根れとつて一は一尺二  
寸とつて一黒草にく矢とられとゆ  
ちつて同由いり旗表ハ成一草の旗と云  
長さハ定然といふ

一 扇ハ中表ハ地紅日と出すとつて一は  
大さハ白を金とくといふとつて一裏ハ  
小早とつて一はと出とつて一満月とつて一也  
の教ハ十二杯とゆとつて一

一かのれ東ハ赤草に馬草とて入る也  
 五軍陣の鹿同事也下ゆき秘流也如けの儀ハ  
 大将限を執事也

一持やれ事 倉乃夜ハ日の方と貴乃夜六部  
 せく可持取ハ月の方と又貴乃夜六部  
 と表く成して可持つらるる時を右れあひ  
 二おらむ也

一志保ハ子れ事とつうけをさる  
 一騎馬の者ハ鑑印とてさるるひ馬征矢  
 一可るら征矢ハ大将と習つて一も若れ事と志

一流小をさす人ハ加ふと表皮ハ習つて  
 一同じく強習を力も回あさる人  
 一托ふれはしやうハ二布むすいてとめやうハ習  
 一うらひ皮ハ征矢もさるる指とハはく  
 一出さぬれ統乃事軍陣ハ酒者又習つて  
 一随兵の馬打ハ次身當家ハ先陣と仕る也  
 一三番貴執ハ先陣ハ右後陣左右又ハ二番  
 一三番貴執ハ取也一して中は志とて也

一 騎馬の者も皮と可成白毛と左へたて  
 皮也志やうまハカテ  
 一 張替れらハら袋又入く持するも五箇  
 ハ括く中間に持す歟  
 一 志やうまれ事熱れ入つてさうひて後當家  
 みる志やうまとまかへて必前のやうハ  
 後へおまかへ又さうあゆませせて持  
 と可成是ハ當家又張る候也  
 一 つ子姉とれるあさうもさうあゆませ  
 てもへさう縁とやうて履へ

一 ら袋の事ハ全れ家母ハ持さうあゆませ  
 當家も軍陣の時ハ持さう也白く布  
 みるさう一ハ志やう草れ射やうさ草れ  
 とあい草思皮替へさうさうあゆませ  
 らす本替れゆひあひせせさう皮と  
 本替のさうら替れさゆ也  
 一 志やうの事志<sup>式</sup>代の所<sup>式</sup>度さう一  
 志<sup>式</sup>代さうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさう  
 老着のさうさうさうさうさうさう

一 馬也

一 馬如車相とれると可用此は軍陣の時を  
如此也

一 矢武羅のり是ハ軍陣乃討の儀也隨兵も  
不可有

一 鎧乃車同七所れ侍台例と云ハ是ハ五音  
と云ハ

一 赤く可る正河も赤く此種乃と云ハ是也  
周身の糸同物も赤く是等ハ五色と云ハ

一 赤く可る正河も赤く此種乃と云ハ是也

一 小具是ハ黒く可る此ハ是也

一 白く可る

一 具是れ上帯赤く黒く白く可る

一 蓋巾とも白く赤く可る

一 具是れ表草志とれ丸乃草巾也

一 志やうと人のいさね事服志とも可る況哉

一 於後式

一 軍人乃事出さぬと歸る時と青ハ是儀  
て碧出さぬと云ハ打腕五本上よと云次  
後  
葉七丁を次にいんらふ五とれと有也の如

一 さいかんまふけきりつー目色の盛也のふ  
 けきりつー  
 一 さうつさい色いー初献もあ  
 ひと尾のまより廣さ方ー示喰初也是ハ  
 末印んらと祝ふ二献撈らと喰初時  
 ーハゆー也三献りらふと喰初て酒香也  
 ー五初と三献りら二度つ酒と入る也二献ん  
 ー二度ら入て是も二度に入て香志<sup>志</sup><sub>皆</sub>いそ  
 九也

一 おさゆの何集戸れさいの内に包丁刀れら成入

向て先と左へるんやうに並てこゆる也同帰  
 ー時ハ刀れら成内へ向くこゆる是も先いた  
 ぬむくー別々々々祝秘事也  
 一 瑞更てれ青の盛振おあふいのとさあを  
 勝栗こまうんらこれ並可成也ーておく  
 揚てようんらふとりよゆてハ揚くおあふんあ  
 ーあといふ也  
 一 さうつさいいさう中事色いさうさうといふ  
 一 候也是も皆ハ揚度れ御吉例とさる秘祝也  
 一 かやう祝の候ら中門より可る出ら候也



一 中門外素戸よりとある也

一 同馬女系中南よりとある也家に向ふ

くハトハわく可系

一 馬のいよゆさよりとある也又ハあるいよゆさ

不討ハ具足の上帯と解てゆひな候してきん

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 一とすん一あん一又ハ侍を懸してらるれ

一 旗ハ布本也又あや可成と云々あふさつけ  
 十一又ハ一丈三人守歟  
 一 旗竿ハ長と云ひる一人 旗竿の行 末ハ節ハ  
 一 じやうりうへと云ふも勢ハ末と云ふるこ  
 一 せあハ草と云ひて上ハ精挺うら同精  
 一 挺の緒と云ふせわちう小信ハわらう分こあを  
 一 一か姉と云ハ大差下我家の紋と云ハ又神々  
 一 一カも書志と云ハ同まつと云ハ同前ハ  
 一 一カも縷と云ハ事也

加藤の事と云ハ幡殿以来源家の秘  
 説也但源家と云ハ又家々の吉例  
 一 可ハ源家ハ秘説と云ハ傳教を志す人  
 一 一ハあつと云ハ大方と云ハ子孫ハ  
 一 一ハ是といふといふ筆書ハ可及ハ  
 一 一可ハ或いふと云ハ秘

明應九年十一月十五日

右隨云次身ハ伊勢貞春車比授了